

読解力育成プリント

プリントの概要

- 図表が用いられた読解問題を計6題掲載しています。
- 実際に文章検で出題された問題を掲載しています。4級・3級・準2級から各2題掲載しています。

プリントの特長

- このプリントは、課題文読解型の小論文などで活かすことのできる「読解力」を育成するものです。
- 簡単な図表読み取り問題から、複数の情報を図表から読み取り、処理をする問題まで、幅広い難易度の問題を掲載しています。
- 生徒の学力に合った問題を選んで取り組んでいただけます。
- 問題を自力で解くことが難しい生徒のために、解答の足がかりとなる「考えるヒント」を付しています。
- 全問解答・解説付きです。

プリントの使い方

- 授業の冒頭や朝学習の時間など、10分程度で取り組むことが可能です。
- 文章検受験に向けた学習教材としても活用できます。
- プリントはコピーを取り、生徒に配布してください。
- 「解答・解説」で答え合わせをしてください。

文章検4級①
表の読み取り

年 組 番 氏名

次は、ある中学校の一年生で行うスポーツ大会の種目を決めるため、各クラスの体育委員（男子・女子一名ずつ）が提出した希望をまとめたものです。これを見て、後の問い（問1・問2）に答えなさい。（20点）

表 各クラス体育委員の種目への希望

	球技			球技以外	
	サッカー	ソフトボール	ドッジボール	つな引き	大なわとび
1組男子	○	○	△	○	×
2組男子	○	○	○	△	○
3組男子	○	○	○	△	△
4組男子	○	×	○	×	○
5組男子	△	○	△	○	×
1組女子	×	△	×	△	△
2組女子	△	△	○	△	○
3組女子	×	△	△	○	○
4組女子	△	○	△	×	△
5組女子	△	△	○	△	×

○：やりたい
△：やってもよい
×：やりたくない

問1 表から読み取れることとして正しいものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。（10点）

- ア スポーツ大会に反対しているのは、一組女子の体育委員である。
- イ 過半数の体育委員が「やりたい」または「やってもよい」としているのは、ソフトボールとサッカーのみである。
- ウ 男子の体育委員は全員、二つ以上の球技を「やりたい」としている。
- エ 球技の中で「やりたくない」種目がない女子の体育委員は、三名いる。

問2 表をもとにして、次の条件で決定した種目の組み合わせとして最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。（10点）

- 条件1 男女それぞれ「球技」と「球技以外」から、それぞれ一種目を選ぶ。
- 条件2 「やりたくない」体育委員の少ない種目を優先し、「やりたくない」体育委員が同数の場合は「やりたい」体育委員の多い種目を優先する。

- ア 男子…サッカー・つな引き 女子…ドッジボール・つな引き
- イ 男子…ソフトボール・大なわとび 女子…ドッジボール・つな引き
- ウ 男子…サッカー・つな引き 女子…ソフトボール・大なわとび
- エ 男子…ソフトボール・大なわとび 女子…ソフトボール・大なわとび

【著者のコメント】
問1 ア～エのそれぞれを表と照らし合わせてみましょう。

問2 まず、「やりたくない」体育委員の少ない種目を、男女それぞれ表から選んでみましょう。
種目を選んだら、その中から「やりたい」体育委員の多い種目を選びましょう。

解答欄
問1

問2

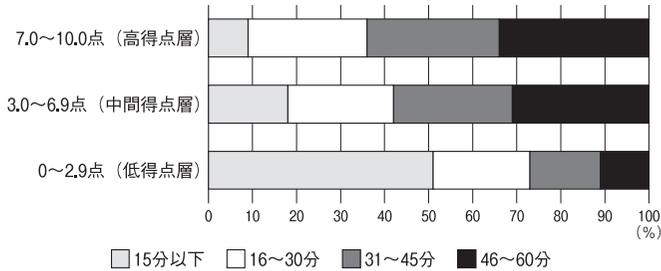
文章検4級② 帯グラフの読み取り

年 組 番 氏名

ある中学校では、国語の時間に10点満点の小テストを行っています。次の図は、二年生の生徒全員を対象にして、この小テスト10回分の平均点と、毎回小テストのための勉強をどのくらい行っているかを調べ、その結果をあわせて示したものです。これを見て、後の問い(問1・問2)に答えなさい。

(20点)

小テストの平均点別に見た勉強時間の割合



問1 図から読み取れることとして正しいものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。(10点)

- ア どの得点層でも、勉強時間が31～45分という人が最も多い。
- イ 高得点を取るためには、46分以上の勉強時間が必要である。
- ウ 低得点層で勉強時間が15分以下という人は、低得点層全体の5割を超えている。
- エ 中間得点層で勉強時間が31～45分の人と、46～60分の人と、いずれもおよそ30人である。

問2 次の図について説明した文章の一部です。空欄に入る内容として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。(10点)

低得点層は勉強時間が短い人が多く、長くなるほど少ない。逆に、高得点層は勉強時間の長い人が多く、短くなるほど少なくなっている。また、中間得点層はその中間である。この結果から、
 [] と言えそうだ。

- ア 低得点層の人は、今後少なくとも16分以上勉強しなければならない
- イ 平均点と勉強時間との間には関わりがある
- ウ 長時間勉強した人は高得点を取れるが、勉強しなかった人は低得点しか取れない
- エ 中間得点層は、勉強時間の差があまりない

【答えるヒント】

問1

イ 高得点層は全員46分以上勉強しているでしょうか。

エ 問題のグラフは割合を示すものです。

問2

高得点層・中間得点層・低得点層における勉強時間の特徴から言えることは何でしょうか。

解答欄
問1

問2

文章検3級① 円グラフの読み取り

年 組 番 氏名

次は、敬語について意識調査を行った結果について書かれた文章の一部です。これを読んで、後の問い(問1～問3)に答えなさい。(30点)

図1 社会生活における敬語の必要性

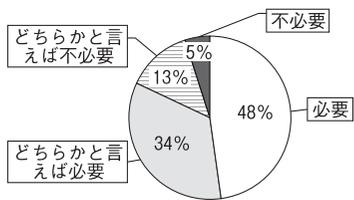
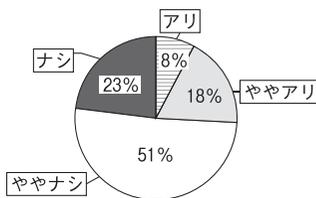


図2 敬語使用の自信(敬語必要派)



インターネットを利用して「敬語」についての意識を調べた。対象者は20代から70代、有効回答数は計六〇〇である。調査結果のうち、「円滑な社会生活を送る上で敬語は必要だと思うか」(図1)、「敬語必要派は自分の使う敬語に自信を持っているか」(図2)の二つについて見ていこう。【段落A】

まず、敬語の必要性については、「必要」「どちらかと言えば必要」を合わせた敬語必要派は、①の回答となっている。多くの人が、社会生活を順調に送るために、②ことが分かる。では、敬語必

要派は、自らの敬語使用に自信を持っているのだろうか。図2を見てみると、「自信アリ」「やや自信アリ」と回答した人は合わせて約四分の一しかない。これらの結果から、社会生活を送る上で敬語が必要だと考えている人は、③ことが分かる。【段落B】

敬語必要派は、当然、敬語の話題、特に、メディアなどで取り上げられる敬語の話題に関心を持つと思われる。ところが、その内容の多くは、敬語は間違いやすく難しいという立場からのものであり、そこでは、敬語が適切に使えないのは社会人として恥ずかしいといった指摘がなされる。敬語に熱心な敬語必要派は、そうした話題に多く接することになるはずで、接すれば接するほど敬語は難しく間違いやすいという情報をすりこまれる。その結果、敬語必要派は、敬語使用に自信を失うのではないかと考えられる。【段落C】

問1 空欄①、②に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。(10点)

- ア ①八割以上 ②人間関係の円滑さが必要だと考えている
- イ ①八割弱 ②敬語が重要だと考えている
- ウ ①八割以上 ②敬語が必要だと考えている
- エ ①約八割 ②敬語の必要性をそれほど重要視していない

問2 空欄③に入る内容として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。(10点)

- ア 必ずしも敬語の知識や使い方に自信があるわけではない
- イ 敬語が不必要だと考えている人と同じ意識を持っている
- ウ 実は敬語が苦手であり日常生活では使用していない
- エ 特に若年層に多く老年層は比較的少ない

問3 段落Cで筆者が述べたこととして最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。(10点)

- ア 敬語必要派は、メディアの敬語の話題に多く接するので、敬語使用に熱心になるのは当然である。
- イ 敬語必要派は、敬語は間違いやすく難しいという意識が強くなって、敬語使用の自信を失いやすい。
- ウ 敬語使用について学ぶには、敬語は間違いやすく難しいというメディアでの扱われ方を観察するよりよい。
- エ 敬語が適切に使えないのは社会人として恥ずかしいことであり、敬語は必要である。

【著者のコメント】

- 問1 ①図1の読み取り問題です。
- ②読み取った結果、何が言えるでしょうか。

問2

ア～エの内容のうち、図2から読み取れるものを選びましょう。

問3

段落Cの読み取りに関する問題です。筆者は、敬語必要派が敬語使用に自信がないのはなぜだと考えているでしょうか。

解答欄

問1

問2

問3

文章検3級②
帯グラフ・
表の読み取り

年 組 番 氏名

ある調査会社が「日ごろ利用する電車内で弁当を食べること」について意識調査を行いました。次は、その結果について書かれた文章の一部です。これを読んで、後の問い(問1～問3)に答えなさい。(30点)

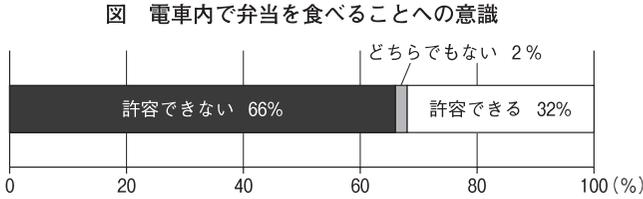


表 許容できない理由 (複数回答) 単位: 人

理由	「許容できない」を選択				合計
	10・20代	30・40代	50・60代	70代以上	
ニオイがする	41	59	60	70	230
ゴミが落ちる	28	46	38	67	179
行儀が悪い	10	16	31	82	139
見苦しい	8	12	25	83	128

調査対象者は、10・20代、30・40代、50・60代、70代以上の各一〇〇人、計四〇〇人である。「日ごろ利用する電車内で弁当を食べること」について、「許容できる」「許容できない」「どちらでもない」のいずれかを選択してもらった。図は全世代の合計を示している。図では、「許容できない」が66%、「許容できる」が32%であり、電車内で弁当を食べることは受け入れられないと回答した人の方が多い。行楽などで利用する場合の電車とは違い、①と言える。

では、弁当のどういった点が許容できないのか。「許容できない」と回答した人の理由を年代別に示したのが表である。理由として最も多いのは「ニオイがする」であり、「ゴミが落ちる」「行儀が悪い」「見苦しい」と続く。上位の二項目は、「ニオイ」「ゴミ」といった実質的な点を理由としているのに対し、それに続く後者の二項目は、どちらかと言えばマナーなどの形式的な点を問題としていると言える。

また、年代別では特徴的な点が二つある。一つは、「許容できない」と回答した人が②ことだ。10・20代の49人から徐々に増え、70代以上では85人となっている。もう一つは、実質的理由と形式的理由のどちらが多いかである。50・60代以下の年代では、A理由がB理由よりも多いが、70代以上は、B理由がA理由を上回る。

問1 空欄①に入る最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。(10点)

- ア 通勤・通学に利用する電車内はスペースが狭く食べにくい
- イ 日ごろ利用する電車内では、弁当を食べることに違和感がある
- ウ 「どちらでもない」を選択した人が非常に少ない結果である
- エ 「許容できない」と回答した人は弁当ではなくアメなどを食べている

問2 空欄②に入る最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。(10点)

- ア 年代が高くなるほど多い
- イ 年代によってバラバラである
- ウ どの理由でも存在している
- エ 10・20代では50人以下である

問3 空欄A、空欄Bに入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。(10点)

- ア Aニオイがするという Bゴミが落ちるといいう
- イ A見苦しいという B行儀が悪いという
- ウ A形式的 B実質的
- エ A実質的 B形式的

【答えるヒント】

問1 図と本文から何が言えるかを問う問題です。

問2 「許容できない」を選んだ人の年代別の割合は、どこを見れば読み取れるでしょうか。空欄の次の文との意味のつながりにも注意しましょう。

問3 表の「理由」がそれぞれ「実質的」「形式的」のどちらにあたるのかを考えてみましょう。

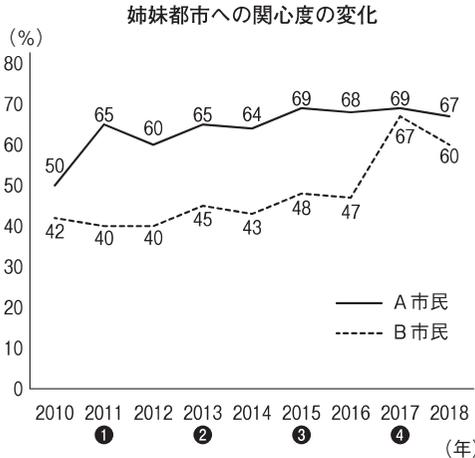
解答欄
問1
問2
問3

文章検準2級①
折れ線グラフの
読み取り

年 組 番 氏名

次の文章を読んで、後の問い(問1～問3)に答えなさい。

(30点)



- ① A市役所前におけるB市特産野菜配布
- ② 両市民の秋祭り相互招待
- ③ 両市民の夏季交換ホームステイ
- ④ B市博物館におけるA市文化財の特別展示

A・B両市は姉妹都市である。両市はこれまで二年ごとに、交流イベントを四回行ってきた。そのイベントが相手都市への関心度とどのように関連しているかを探ってみたい。毎年、年末に両市民各一〇〇〇人を対象に「姉妹都市に関するアンケート」を実施している。その結果における「相手都市への関心がある」と答えた人(以下、「関心派」と呼ぶ)の割合をデータとして利用する。【段落A】

上のグラフは、その割合の年変化を示しており、①～④を付した年は、イベントが行われた年を示している。また、イベントの内容は左上に掲げた通りである。【段落B】

A市民の「関心派」が前年と比べて最も大きく増加したのはイベント①のあった二〇一一年で増加幅は一五ポイントだが、翌年には五ポイント減少している。一方、B市民の「関心派」が最も大きく増加したのはイベント④のあった一七年で増加幅は二〇ポイントだが、翌年には七ポイント減少している。また、両市とも①【段落C】

これらの傾向がイベントの影響によるものだとすれば、②・③のように直接両市民が行き交うイベントには、双方で相手都市への関心を一定程度高める効果があり、一定の持続性があるといえる。それに対して、一方の都市だけでイベントが開催された場合には、②【段落D】

- 問1 段落Aで述べられている内容として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。(10点)
- ア この文章を書くに至った動機
 - イ A・B両市の関係とイベントの実施方法
 - ウ 調査の目的・方法に関する説明
 - エ 今回の調査とアンケートの関係

- 問2 文中の空欄①に入る内容として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。(10点)
- ア 「関心派」が四〇%を下回ることなく、近年は六〇%以上である
 - イ 「関心派」は一三年と一五年にもそれぞれ五ポイント増加し、翌年もほぼ同程度を保っている
 - ウ 「関心派」は一八年の時点で六〇%以上を維持しており、多数を占めている
 - エ 全体の傾向として、「関心派」の割合は右上がりの傾向が認められる

- 問3 文中の空欄②に入る内容として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。(10点)
- ア 開催都市で相手都市への関心を大きく高める効果があり、その持続性も高い
 - イ 開催都市で相手都市への関心を大きく高める効果があるが、その持続性は低い
 - ウ 相手都市で開催都市への関心を大きく高める効果があり、その持続性も高い
 - エ 相手都市で開催都市への関心を大きく高める効果があるが、その持続性は低い

【問いのヒント】

問1 段落の内容について問う問題です。

問2 グラフの読み取り問題です。両市に当てはまる傾向を読み取りましょう。直後の文との意味のつながりにも注意しましょう。

問3 ②を含む文の冒頭に「それに対して」とあることから、この文で前文と異なったことを述べよとしていることがわかります。それをふまえて適切なものを選びましょう。

解答欄

問1

問2

問3

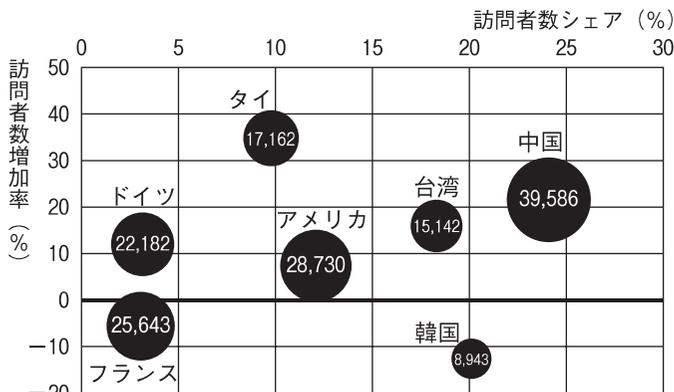
文章検準2級②
多くの情報が含まれる
図の読み取り

年 組 番 氏名

次の文章を読んで、後の問い(問1～問3)に答えなさい。(30点)

二〇一七年、X市内のX空港から入国した外国人数は、過去最高の約五〇万人を数えた。各地で訪日客呼び込みのための取り組みが進み、国内の観光地同士の連携が進展すると同時に競争も激化している。X市にさらに多くの訪日客を取り込むため、まず、入国者の国・地域別の動向を的確に把握することが肝要である。

X空港から入国した外国人の国・地域別動向 (2017年)



●内は、市内滞在中の1人当たり支出金額(円)

上の図は、二〇一七年にX空港から入国した外国人(訪問者数の多い、上位七つの国・地域)の動向を示している。縦軸と横軸はそれぞれ、X空港から入国した外国人の二〇一六年度からの増加率と二〇一七年にX空港から入国した外国人の総数に占めるシェア(比率)を示している。そして、各国・地域を示す●の大きさは、X市内に宿泊した外国人一人当たりの市内滞在中の支出金額に比例している(X市観光協会が実施したアンケートの結果による)。**【段落B】**
まず、訪問者数シェアと訪問者数増加率に注目すると、**①**、訪問者数増加率も一〇%を超えており、比較的高い数値を示していることがわかる。一方、フランスは、訪問者数シェアが五%に満たず、訪問者数増加率はマイナスとなっていることがわかる。市内滞在中の支出金額については、やはり中国が約四万円でトップである。また、**②**、こ

もわかる。**【段落C】**
今後は、重点的にプロモーションの対象とする国・地域を絞り込んでいく必要がある。そのためには、各国・地域の訪問者数が増減した理由を詳細に分析したうえで、将来予測を行うべきである。**【段落D】**

問1 文中の空欄①・②に入る内容の組み合わせとして最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。(10点)

- ア ①中国・台湾が訪問者数シェア一位・三位を占め ②中国以外では欧米三か国が二万円を超えた
- イ ①中国・台湾の訪問者数シェアは二〇%を超え ②韓国からの宿泊客は支出が少ない
- ウ ①中国・台湾・韓国の訪問者数シェアは一五%を超え ②アジア諸国はすべて一万五千円を超えた
- エ ①タイの訪問者数シェアは中国を上回っており ②中国の支出金額は台湾の三倍以上である

問2 文中の傍線部の分析の具体例として最も適切なものを、ア～ウのうちから一つ選びなさい。(10点)

- ア 韓国は増加率が最も低いが来年に姉妹都市協定を結ぶ都市もあり、好転が期待できるのではないか。
- イ タイの増加率が際立っているのは、X空港とタイを結ぶ直行便が新設されたことによるのではないか。
- ウ ドイツ・フランスが増加率を除いて近い値を示しているのは、両国に文化的共通性があるからではないか。

問3 文中のグラフの特徴として最も適切なものを、ア～エのうちから一つ選びなさい。(10点)

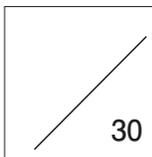
- ア 段落Aで言及されている数値を、特に強調して表示している。
- イ 段落Bで扱われている「増加率」「シェア」「支出金額」の意味を、より正確に説明している。
- ウ 段落B・Cで扱われている三種類のデータを、同時かつ視覚的に表現している。
- エ 段落A・Dで言及されている課題を、直接的に説明している。

【著者のコメント】

問1 ①は、直後の「訪問者数増加率も一〇%を超えており」にも注意しましょう。

問2 訪問者数が増減した理由として説明がつくものを選びましょう。

問3 このグラフでは、それぞれの国・地域について、どのような情報が読み取れるでしょうか。



解答欄

問1

問2

問3

解答と解説

【文章検4級① 表の読み取り】

(解答) 問1 エ 問2 ウ

(解説)

問1

アの「スポーツ大会に反対している」ことは、表からはわからない。**エ**は、球技で「×」を付けていない女子の体育委員が2組、4組、5組の3人いるので正解。イ、ウの内容は表の内容と異なる。

問2

男子では、サッカーとドッジボールの「×」が0名。そこで、球技は「○」の多い方のサッカーと決まる。球技以外は「×」の少ないつな引きに決まる。女子の球技は、ソフトボールの「×」が0名なので、ソフトボールに決まる。球技以外は、つな引きも大なわとびも「×」が1名だが、「○」は大なわとびの方が多いため、大なわとびに決まる。よって**ウ**が正解。

【文章検4級② 帯グラフの読み取り】

(解答) 問1 ウ 問2 イ

(解説)

問1

低得点層で勉強時間が15分以下という人は、50%を少し超えているので、**ウ**が正解。アの内容はグラフの内容と異なる。イは、15分以下でも高得点を取っている人がいるので誤り。エは、グラフが割合を表しているため、「30人」ではなく「30%」。よって**エ**も誤り。

問2

空欄の前で述べられていることをまとめると、平均点と勉強時間の長さとは関係があるということが言える。よって**イ**が正解。勉強時間が短い人も高得点層にはおり、低得点層には長時間勉強した人もいるため、**ウ**は誤り。**エ**は中間得点層の内容だけで、低得点層、高得点層について述べられておらず不十分。

【文章検3級① 円グラフの読み取り】

(解答) 問1 ウ 問2 ア 問3 イ

(解説)

問1

空欄①は図1が関わる。「必要」「どちらかと言えれば必要」と回答した人の割合を足せばよい。空欄②は八割以上が敬語の必要性を認めたという文脈に合うものを選ぶ。よって**ウ**が正解。

問2

図2から読み取れることを選ぶ。**ア**が正解。イは敬語を不必要と考えている人の意識を、ウは日常生活での敬語使用を、エは年齢層の違いを、いずれも図2から読み取れないので誤り。

問3

段落Cの内容をまとめると以下のようになる。
敬語必要派は敬語の話題に関心を持つ。それは、たいてい「敬語は間違いやすく難しい」といった内容のものであり、そういった話題に接することの多い敬語必要派は、敬語使用の自信を失う。
以上と同じ趣旨のことを述べている**イ**が正解。

【文章検3級② 帯グラフ・表の読み取り】

(解答) 問1 イ 問2 ア 問3 エ

(解説)

問1

まず、図から電車内で弁当を食べることを「許容できない」人が多数であることを確認する。また、空欄①の直前に「行楽などで利用する場合の電車とは違い」とある。このことから空欄①には行楽の電車と比較する内容が入ると考えられるので、**イ**が正解。

問2

空欄②は、年代別で特徴的な内容が入る。その一つ目の特徴である、空欄の次の文の内容をまとめた**ア**が正解。

問3

直前の文から、A・Bには「実質的」「形式的」が入ると考えられる。表の上二つが「実質的」理由、下二つが「形式的」理由。50・60代以下の年代と70代以上を見ると、**エ**が正解と分かる。

【文章検準2級① 折れ線グラフの読み取り】

(解答) 問1 ウ 問2 イ 問3 イ

(解説)

問1

段落Aの前半は、「イベントが相手都市への関心度とどのように関連しているか」という調査の目的を述べ、後半では調査の方法について説明している。よって正解は**ウ**。

問2

段落Cでは、前年と比べた関心度の「増加幅」に着目しており、また空欄①の直前に「両市とも」とあるので、A市・B市ともに共通の増加についてふれた記述を選ぶとよい。各選択肢をグラフと照らし合わせると**イ**が正解とわかる。ア、ウ、エは、いずれも前年と比べた増加幅について述べたものでないので誤り。

問3

空欄②には、一方の都市だけのイベントの効果、つまり、①・④の効果について述べたものを選ぶ。①・④ともに開催都市で相手都市への関心が大きく高まっていることから、答えをア・イに絞ることができる。また、①・④の次の年の関心度が前年と同程度を保っておらず、低くなっているため、持続性は低いことが分かる。よって**イ**が正解。

【文章検準2級② 多くの情報が含まれる図の読み取り】

(解答) 問1 ア 問2 イ 問3 ウ

(解説)

問1

空欄①は、図の横軸の国・地域の「訪問者数シェア」を見るとよい。そこからア・ウの内容が正しいとわかる。空欄②は支出金額について述べているので、国・地域の●の数値を見るとよい。そこからア・イの内容が正しいとわかる。よって、空欄①・②ともに正しい**ア**が正解とわかる。

問2

訪問者数が増減した理由の分析にあたるものを選択肢から選ぶ。正解は**イ**。ウは訪問者数増加率ではなく、「訪問者数シェア」と「支出金額」に着目した分析なので誤り。

問3

図には「訪問者数シェア」「訪問者数増加率」「支出金額」の3種類のデータをまとめて示しているという特徴がある。これを説明した**ウ**が正解。イは、段落Bの用語の意味をグラフでは説明していないので誤り。